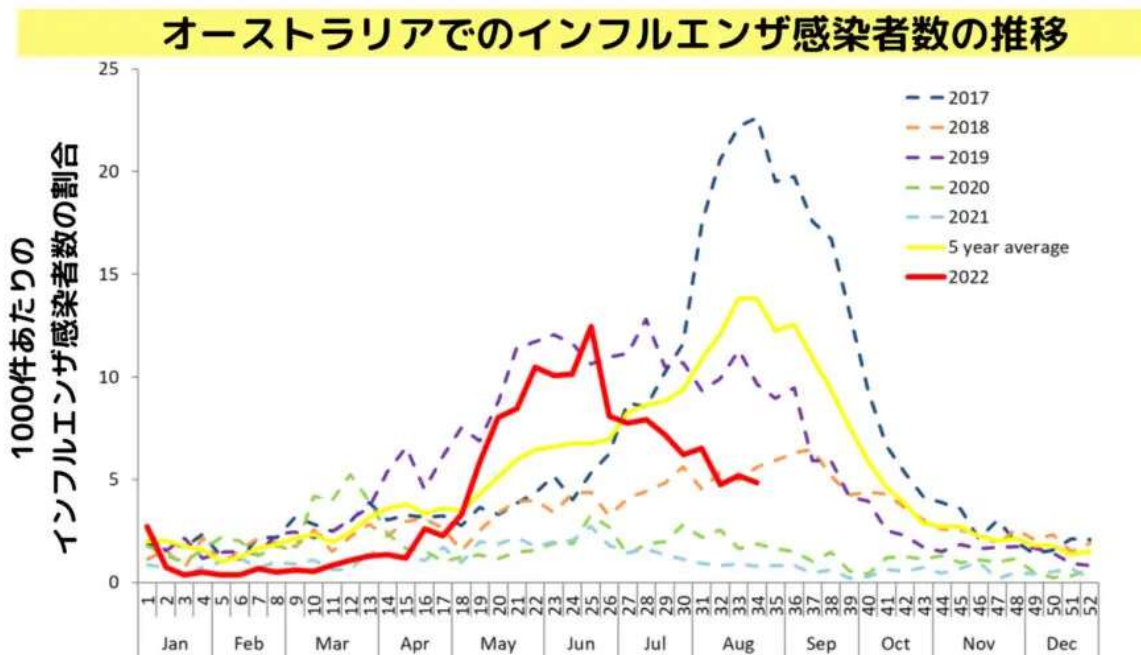


今季のインフルエンザ対策について

国内で COVID-19 の流行が始まった 2020 年 2 月以降、インフルエンザの患者報告数は急速に減少し、現在まで検出の報告はほとんどありませんでした。これは、COVID-19 対策として普及した手指衛生やマスク着用、3 密回避、国際的な人の移動の制限等の感染対策がインフルエンザの感染予防についても効果的であったためと考えられます。

北半球の冬季のインフルエンザ流行の予測をするうえで、南半球の状況は参考になります。オーストラリア政府は毎年インフルエンザの発症状況を報告していますが、2020 年および 2021 年は、わが国同様、インフルエンザ患者は極めて少数でした。しかし、2022 年は 4 月後半から報告数が増加し、例年を超えるレベルの患者数となっています。わが国においても、今秋から冬には、同様の流行が起こる可能性があります。



オーストラリアで本年度に検出されたインフルエンザウイルスの約 80%が A 香港型でした。そのため、今シーズンはわが国でも A 香港型の流行が主体となる可能性があります。A 香港型が流行すると、インフルエンザによる死亡や入院が増加することが知られているので、特に警戒が必要です。

インフルエンザワクチンには、4 種類（A 型 2 種類、B 型 2 種類）のウイルス型が含まれており、A 香港型もそのうちの一つです。ワクチンは、発症予防効果とともに重症化防止効果が期待できます。ワクチン接種が是非必要な人は、65 歳以上の高齢者、5 歳未満のお子さん、心臓や肺などに慢性の持病のある方、悪性腫瘍で治療中の方、高度の肥満の方です。また、これらの方と一緒に生活されておられる方、学校や職場で人との接触の多い方も積極的に受けて頂きたいと思います。

今季は、発熱された患者さんでは、ワクチン接種歴に関わらず COVID-19 とインフルエンザを見分けることが重要となります。また両者が合併して重症になる場合もあります。したがって、発熱者では両方のウイルスに対する検査が必要となることもありますので、受診をお勧めします。